

---

# **ゼロの使い魔で宇宙開発モノを書くために、設定を色々と捏造してみる**

海松房千尋

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゼロの使い魔で宇宙開発モノを書くために、設定を色々と捏造してみる

### 【Zコード】

N5261Z

### 【作者名】

海松房千尋

### 【あらすじ】

目的はゼロの使い魔の世界で、転生者に宇宙開発を行わせる事。舞台はトリステインで、最初の宇宙飛行士はもちろんサイト君。軌道往還機を作らせるつもりなので、単なる弾道飛行ではなく、大気圏への突入とその後の滑空にはかなり高度な技術が必要になるため、実際にはコンピュータ制御は必須と思われるが、そこをガンダールヴの能力で補完します。

## 目的はタイトルのまんまだけど……？（前書き）

一応SFとして書くつもりなので、大量の設定の捏造が必須。間違いや勘違いの指摘や、ネタや意見、開発のアイデア等、ぜひコメントしてください。よろしくお願いします。

## 目的はタイトルのまんまだけど……？

目的は、ファンタジー世界で宇宙開発モノを書くこと。

なぜゼロ魔でなくてはならないかといつと、帰還時の纖細で非常に高度な軌道計算や操作・操縦の必要な、小型の軌道往還機の問題点を、ガンダールヴというチート能力で解決させるため。

ルイズの爆発の能力が、かなり有効に利用できる可能性が高い事。

元の設定に融通がきくので、捏造がし易い世界であること。

まあメインはサイト君の能力がないと、どんだけご都合主義的に書いたとしても、正直言つて無事に地表に降りてこれるとは思えないからなんですよね。

でもガンダールヴならなんとかするんじゃないかと? w

あと、ガリアとゲルマニアに宇宙開発競争をさせたいので、そこへもってゆくためにも設定とストーリーの歪曲が必須。

さらに魔法も含めた全ての技術の開発チートを行わないといけないが、ハルケギニアに存在する技術レベルが不明なため、どの分野をどれだけ伸ばしてやれば、魔法で補完するだけで宇宙に人を送れるのか、その部分を捏造しなくてはならない。

ついでに、SFらしくある程度リアルに描きたいので、日常の様々な部分を、史実に則つて正確に設定しておきたい。

さらに原作に矛盾しない形で、魔法にどんな事ができるのか、どの程度のところまで改变かのうなのかを考えてゆきます。

そんなわけで、最初は想いつくままに、適当に、ブレストのつもりで、でもだらだらと流しながら設定の捏造を行いつつ、最終的にそれらを纏めて一次作品世界の構築を目指します。

『おはタイトルのまんまだけ』……？（後書き）

「マジで」「意見」「感想」、ネタ、勘違いいや間違いの訂正その他もんな、「よろしくお願ひします。」

脳内ブレスト ゼロ魔の月は共有軌道衛星……だったら面白いかも? (前書き)

活動報告欄で、ダラダラと書いていたものです。

## 脳内プレスト ゼロ魔の月は共有軌道衛星……だったら面白いかも？

ヤヌスとヒペメテウスの軌道の半径は、平均して50kmしか離れていない。これは衛星の直径より小さい。内側を周回する衛星の方が公転速度が速いため、しだいに外側の衛星に追いついていく。そのままでは衝突してしまつようと思われるが、数万kmまで接近すると、内側を回っていた衛星は外側の衛星の重力による外向きの力を受けて外側の軌道に移る。同時に、外側の衛星は内側の衛星から内向きの力を受けて内側の軌道に落ち込む。2つの衛星が軌道を「交換」すると、追いつかれそうになつた衛星が他方を引き離すように公転を続けるので2つの衛星は衝突しない。

by Wiki

面白いねえ……。

地球に月が二つあって、それがこの軌道をとつていたら、満ち欠けとかどんな風に見えるんだろう？

自分がネタで作つてる世界には二つの衛星があるけど、「ぐぐぐー一般的な平均運動共鳴の状態で、別々の軌道を回つてるが、連星系にある一つの衛星（これは長期的には不安定になるので、実はあまりよろしくない）って事で考えてたんだけど、これで安定した軌道がとれるというなら、選択肢としては良いよね？」

「地上から見て同じ大きさの二つの月」

それが、いったいどんな軌道で公転してゐるのか、どんな軌道で公転していたら面白いネタが生まれやすいか……。考えすぎて決められずに放置してたんだけど、こんな軌道とらせてても面白いよね？

ヤヌスとヒペーメテウスの場合は4年毎に軌道を入れ替えるらしいから、同じくらいの周期で入れ替えが起こるものとして考えた場合、暦を作るなら4年毎に閏月のよつた、なんらかの節目を入れる、太陰太陽暦を考えたら、多分リアリティが増すはず。

あ、ちなみに、「コレはそのままゼロ魔の宇宙開発モノ一次作品に使おうとか思ってるんだけど、円の軌道……どうしようかねえ？」

一つまでは結構簡単に軌道を維持できるみたいだけど、主星を含めて3つの星に安定した軌道をとらせるのってものすごく難しいから、あんまり複雑な事はしたくないしね？

衛星の大きさと公転周期をミスマッチすると、SFとしては致命的な事になるはずだし……。

特にゼロ魔の月は地球とは比べ物にならないほど「大きい」という事になってるから、よほど大きな衛星、というより、実は連星系にふさわしいくらいの大きさって事にするか、それとも地球の月とは比べものにならないくらい近い場所を公転している事にするのか、その両方って事にするか……。

迷う。

どちらの場合も、潮の道引きが地球とは別モノになるので、当然のように沿岸の海流は相当大きな影響受けるだろうし。

ハルケギニアって、航海技術が相當上がらないと、地球の大航海時代みたいな時代は来ない世界なんだろうな。

もちろん、船による航海はそうだけど、あの世界には空を飛ぶ「フネ」があるから、航続距離の問題を上手く捏造して設定すれば、いろいろと面白いお話が作れるとは思うけど。

あー、まあ、それがあるから地球と違つて海の向こうの新大陸とか、6000年も発見出来ずじまいになつてるとか、いろいろネタには使えそうだなあ……。

うーん。

つかさ、人間の社会が6000年も中世レベルとかありえないんだよね？

魔法があるから、とか、人間が地球の人間と同じような脳を持つてるなら、絶対理由にはならない。

地球の人間とは比べ物にならないくらい、「おばか」か、「まぬけ」揃いの世界でもないかぎりね。

地球の歴史に当てはめて考えたら、魔法があればローマ帝国の頃には人類は月に植民地作つてゐるだろつて、鄭和の遠征は外惑星系への進出になつてゐるよ。

魔法が存在したら、古代ギリシャや古代中国、インドやエジプトやメソポタミアの人間が、それをどんな風に利用しようとするか、ちよつと考えたらわかりそうなものだけど……？

まあ……その辺を突っ込むとお話にならないので……。

ガリアのジョセフとシャルルをどう扱うべきかな？

ハルケギニアの風石の問題も、独自に解決法を提示すべきなのかな？

ほかの虚無の使い手たちや、三姉妹の扱いについても、いろいろ迷ってしまいます。

原作無視でちょっとしたネタ話にするだけでもいいのかもしないけど、トリスティン初の宇宙飛行士は、やっぱリゼロの使い魔であるサイト君しかないと思つんだよね？

そうすると、風石の問題については独自に解決する方向でないと拙い。

軌道往還機についても、トリスティンからアルビオン、アルビオンからさらなる高高度、2～30キロの上空へ、なにか魔法的な非常に経済的な方法でもつていて、そこから小型の、X-1くらいの大きさの、宇宙船を射出して弾道飛行で周回させて戻つてこさせる感じ？

30キロ近い高度から、ブースターと本体の燃料あと70キロ上升させて……弾道飛行の後に滑空して帰つてくる。

ブースターは風の精靈使って大気を圧縮してラムジェット。ト。

これで高度50キロくらいまでつて、あとは本体の燃料……何がいいかな？

ヒドリジンとか下手な燃料使えないし、火石とか使う？

考えてみたら、溶岩作るくらいの高温出せるらしいから、燃料なんてなんでもいいんだよねえ。

超高温状態の火石に、適當な液体を連續して接觸させて、その爆発力に指向性もたせるために固定化かけたノズルから噴出させてやればいいんだから。

いいなあ、魔法の世界は簡単で。

冶金技術とかも関係なく、土のメイジに適當な物を作らせて、後は固定化で壊れないようにして……。

大気圏突入の時も、固定化と風の冷却魔法で悠々と帰還……。

稚拙すぎる製造技術からくる操縦性その他の問題は、ガンダールヴの能力で無理やり制御。

一度飛んで成功してしまえば、後はその技術を元に熟成していけばいい。

うん。  
いけるな。

ガンダールヴってやつぱりチートすぎるwww

## 脳内プレスト ゼロ魔の月は共有軌道衛星……だったら面白いかも? (後書き)

「」意見」「感想、ネタ、勘違いや間違いの訂正その他もんもん、よろしくお願ひします。

# 脳内プレスト ゼロ魔の一次設定を捏造する 1（前書き）

活動報告欄に書いたモノを転載

どうせ宇宙開発物として書くなら、元がゼロ魔だつたとしても、一応はSFとして読めるくらいにしたいですよね？ したいでしょ？ したいよね？

そうすると、作品の中ではまったく語られていない部分を色々と捏造しないとならないです。

といふか、作品から可能な限りハルケギニアのリアルな文化、技術、生活その他を抽出しないといけないんですけど……。

飛ばしうさぎでしょ、アレ。

一般の人気がどんな生活をしているのか、ほとんどわからない。

技術レベルも曖昧で、中世ヨーロッパ、それも、六世紀から十七世紀くらいまでの技術や文化がごちゃ混ぜになってる。

まあだとしても、一般的農民の生活っていうのは、六世紀でも十七世紀でもほとんど変わっていないし、新大陸のしの字もないでの、食生活についても非常に貧弱なんだらう程度の事は予想ができる。

当然、毎年どこかで飢饉が発生するような状態になるし、さらに魔物や亜人なんかが、ヨーロッパにおける狼以上の脅威として存在するので、夜や森は恐怖の対象となり、森に入るには樵と狩人、極々稀に食用になる野草や薬草をとりに入る程度。

狩人についても、基本的には農師であつて、弓矢を使って狩をする

わけではない。

貴族の生活についても同じ。

小説を読んだ限り、主人公の周辺はともかく、一般的の貴族の風呂はたらいに毛が生えたようなものに、浴衣を着て入り、召使いが洗う感じでいいと思うし、特定の場所にトイレがあるわけではなく、間違いなくオマルだろう。

服装から考えて、自分では簡単に脱げないはずなので、召使にオマールを持つてこさせて、その上にしゃがみこんだあと、自分でお尻とか拭けないので召使に拭かせる。

当然ながら下着は、近代まで使われ続けていた、しゃがんだ時にばつくり割れるタイプで間違いない。

あんなドレスを着て、現代のショーツみたいな、いちいち脱がないといけない物なんて使うわけがない。

初步的な活版印刷の技術はありそudsが、もしかしたら木版印刷程度かもしれない。

水車や風車の利用もどうやら存在している。

つまり、ギヤや滑車や歯車について、ある程度の技術が存在していきる事になる。

それから輸送手段については、竜や馬やマンティコアやゴニコーン、あとグリフオンなどが見られたが、一般につかわれているのは馬やロバだと考えて問題ないはず。

荷馬車や荷車の利用についても、アニメのどこかに使われていたようにも思ひるので、一応は実用可能な馬車が存在しているものとして、一日で、最大で一、三百キログラム程度の荷物を、三十キロメートル程度は輸送できたものと考えられる。

もちろん、街道の状態によつては遙かに少ない量と距離になつてしまつのは間違いない。

ハルケギニアにはローマ街道のような、非常に良く整備された道路は存在していないはずなので、たとえ近距離であつても、交易は大変だつたはず。

しかも盗賊や山賊に狼という危険がある以上に、亜人や魔物といった危険が存在する世界なので、陸上交易については、個人商人単独のものはまず存在しないだろう。

つまり、大都市を結ぶ街道が存在しない限り、個人の交易商というのが生まれにくい世界になるはず。

まあそれでも、個人商人同士が複数集まつてキャラバンを形成したり、護衛を雇つて行う事は可能だろうが、平民メイジの護衛は必須になるだろうなあ。

そうすると、輸送コストは物凄く高くなるわけだ。

食料品の輸送なんてまずありえないね？

陸上交易における商材は、小さくて単価の高いものだけつて事になる。

ただし、空を飛ぶフネについては別だろ。

小型であっても、フネはフネ。  
しかも空を飛べる。

普通に考えると、交易を行つてゐる商人達にとって、最大の目標はフネを手に入れる事になるだろ。

多分物凄い需要があるはず。

問題はコストだけど、アルビオンが食料品を輸入してゐるらしいので、それで儲けが出る程度のもの。

ちなみに風石は消耗品で、航続距離に大きく関わつてゐるらしい台詞があつたので、空を飛ぶ事で風石の量が減つていいくのは間違いないが、風石の価格については、高いにしても、高すぎるほどではなく、食料品と羊毛の取引であつても、十分にペイできる程度に抑えられているものと考えられる。

つまり、確實に儲けの薄い食料品と羊毛の取引であつても、ある程度の儲けが出るのであれば、他の航路で、もつと高価な物を運べばさらに儲かるのは間違いない。

ただし、アルビオンとトリスティンの間を結ぶ航路で、食料品と羊毛の取引に従事している商人に対して、両国、もしくはどちらかの国が、なんらかの経済援助を行つていた場合は別だ。

本来はとても儲けなど出ない航路だが、風石を優先的に購入できたり、買い上げる際の支払いに、補助金が上乗せされたり、補助金を風石で受け取つたりできるのであれば、風石の価格についての前提

が崩れる。

まあトリスティンの状態や、アルビオン編でのやり取りから考えると、多分後者の方が正しいんだろう。

ただし、空賊という存在があることについても言及していたので、空賊という職業が成り立つ程度には、フネによる交易が行われているものと考えていいだろう。

どちらにしても、陸上輸送のコストが馬鹿みたいな事になるので、長距離輸送の主役は間違いなくフネである、としていいだろう。

ついでに、フネの係留方法から考えると、単にその場に浮いているだけなら、もしかすると、高度を変化させなければ、風石は消耗しない可能性もある。

ところが、高度を変化させることで風石は消耗する、ということにしておけば、かなり便利になる。

そういうえば積載量の問題についても捏造する必要があるな？

風石つてどんな仕組みでフネを浮かせているんだろう？

なにか魔法の力場みたいなもので、フネ全体を浮かせているのか？

それとも、浮かぼうとする風石を船内に置く事で、それに乗る、もしくは引っかかるっている感じなんだろうか？

後者だとすると、木造のフネを支えるためには、通常の木造船とはまったく違う構造が必要になる。

ガリアの両用艦隊というのが特別に言われている事を考へると、多分後者だろう。

普通の船は、下に竜骨があつて、水や波の圧力や衝撃に耐えるようになつているけど、フネの場合は、浮かぼうとする風石の上に乗つてゐる、もしくは引っかかつてゐる状態なわけだから、風石を竜骨の下に並べるか、竜骨に近い形状の、風石を保持するための構造が必要になる。

そうすると、やっぱり普通のフネは水には浮かべられないね。専用に設計する必要がある。

重量も大きくなるし、構造も複雑になりそuddだから、それを実現したガリアの両用艦隊つていうのはやっぱり凄いんだろうな。

長くなつたから一時シメ。

## 脳内プレスト ゼロ魔の一次設定を捏造する 1（後書き）

「意見」「感想、ネタ、勘違いいや間違いの訂正その他もんもん、よろしくお願ひします。

## 脳内プレスト ゼロ魔の一次設定を捏造する 2（前書き）

活動報告欄で書いたモノを転載

## 脳内プレスト　ゼロ魔の一次設定を捏造する 2

W i k i にあつた地図からすると、ヨーロッパと同程度の大河がハルケギニアにも存在している可能性が高いので、多分河川を使った輸送は盛んだろう。

もしかすると実際のヨーロッパみたいに、船の上で生まれて船の上で生活し、船の上で死んでゆくような、川の民も存在するかもしれない。

するものとしよう。

基本的には、輸送はフネと、河川を利用した船舶輸送が主。

それが利用できない地域は、ほぼ完全に経済からは取り残されて、貨幣経済についても発達のしようがない。

簡単に辺境というものが生まれる世界だ。

中世ヨーロッパ同様、街道の整備と都市の建設は、貴族にとつては最高の投資手段だろうな。

まあトリステインの貴族に関する記述から考へると、そんな事は考えもしないんだろうけど。

金属加工や冶金の技術については、どうやらゲルマニアである程度大規模な製鉄がおこなわれているらしい事がわかつてるので、それなりに製鉄の技術は進んでいるものと思われる。

特に銃や砲に使用され得る鉄が存在している事から、鋼を作るための技術も確立しているだろう。

となると、「コークスを利用しているか否かが問題になるが、ヨーロッパでは18世紀まで「コークスの利用がなかった（中国では四世紀から使われていたらしい）はずなので、ハルケギニアでもコークスの利用は無いものとしていいと思つ。

つまり、ゲルマニアで行われている製鉄には、大量の木材が必要となり、製鉄所は森のそばに作られ、森を食いつぶして荒野を作り出しながら、転々と移動していく感じのものとなる。

ゲルマニアは「コークスの利用を発明しないとあつといつ間に行き詰まる」とことになるよね。

でも「コークスの利用とか、インフラが結構大変なんだよね。

石炭と同じ場所で鉄鉱石が取れればいいけど、そう上手くいくことは少ないだろうし。

ゲルマニアの地形が地球のドイツと同じような感じだったとすると、ハルケギニアの技術力で大規模な製鉄なんてしたら、本来は良好な穀倉地帯になるはずの地域が激減しかねない。

ガリアはどうなんだろ？

ピレネー山脈はなさそうだし、広大な平野部が南北方向に広がつてゐるんだろうか？

そういえば火竜山脈つて何処なんだろ？

ロマニアとガリアの国境だけ？

じゃあやつぱりアルプスだと考えて良いんだろうか？

まあいいか。

Wikiの地図を見ると、ガリアが物凄く大きい事がわかる。

フランス、スイス、オーストリア、チェコ、さらにはドイツの南部まで含めた地域にまで広がっている。

トリスティンがベルギーで、ルクセンブルグがクルデンホフ？

陸上輸送を含めた移動の困難さから考えると、トリスティンの貴族が井の中の蛙状態になるのは仕方ないとは思うけど、この状態でガリアやゲルマニアと対等に渡り合おうとか、ちょっと変だよね。

まあいいか。

産業とかもう少ししかんがえてみよ。

確か蜂蜜を使ってたはずなので、多分養蜂は行われてるだろうな。

中世ヨーロッパほど、蜜蠍に対する需要はないかもしれないけど、甘味料として考えただけでも、かなり盛んに行われてるはず。

もちろん養蜂は、塩と同じで領主の専売。

そういうえばヨーロッパな地形なので、水車を設置する時には大抵人工湖が生まれるんだよね。

魚の養殖とかも盛んかも？

物語の中でも魚食つてたはずだし。

森に豚を放して、秋に集めて塩漬けにする、とか、難しそうな土地だもんね。

あと牛や羊はどうしてるんだろ？

ワインとホールはあるけど、ビールはどうかな？  
どちらも基本的には甘いお酒だから、昔のヨーロッパみたいに生姜やコショウ入れたりして飲んでるのかな？

そういうえば醸造はあるけど蒸留はなさそうだったつけ。

水が悪いから、子供でも薄めたワインやエールを飲むつていうのはヨーロッパの伝統だし、密造酒も含めてアルコール類は大量に作られてるんだろうなあ。

あ、重要なことを忘れていた。

ハルケギニアの一年は、多分380日以上ある。

週8日で1ヶ月が4週間で、一年が12ヶ月。

ガリア南部では、まず確実に一期作ができるし、上手くやれば二期作だって夢じやない。

意外と潜在的な生産力は高いかも？

## 脳内プレスト ゼロ魔の一次設定を捏造する 2（後書き）

「意見」「感想、ネタ、勘違いいや間違いの訂正その他もんもん、よろしくお願ひします。

ハルケギニアで宇宙開発を行つにあたつて、風石の利用は必須になるものと思われる。

が、その能力については謎が多い、といつか多すぎるのである。

風石を搭載した一般的なフネは、水に浮かべられる構造にはなつていないと思われ、航行時には一定量の風石を消耗するが、係留状態を考えると、単に浮いているだけであれば、風石の消耗は無い、かもしくは気にするほどの量ではなくなるものと考えられる。

ついでに、ビダーシャルは、指輪の小さな風石一つで空を飛んでいたらしい。（ゼロ魔を全部読んでないから知らない。ついでにアニメは見てない。『めんなれ』）

これはエルフが先住魔法の使い手だからなのだとしても、非常に重要な情報が含まれている。

アニメは知らないので、ネットで探したいラストからの印象だけとなってしまうが、ビダーシャルは細身ではあるがサイトよりも背が高いように見える。

感覚的には180センチくらいはあるのではないかどうつか？

つまり、60~70キロくらいの体重であると予想可能だ。

もちろんエルフの体組織が人間と違う場合についてはその限りではないが、指輪の小さな風石一つで、それだけの重量を自由に飛行させれる事ができる能力を秘めているという事である。

そのつもつで設定を捏造してみよ。」

人間の使う系統魔法では、風石の力をすべて発揮させるのは無理だとこう事にした方が面白いのだが、先住魔法と系統魔法、それぞれの使い手のキルレシオが1対10らしいので、そのまま10分の1にしてもいいかもしねないが、それだと条件が厳しすぎるの、まあ半分くらいとしよう。

それでも、多分カラット数で100かそこいらの風石でも、30~40キロぐらの重きの物を浮かべる事ができる。

それも、指輪を持ち上げるのではなく、指輪の持ち主を持ち上げている。

……うーん。

それはマズイ。

便利すぎる。

フネとか、風石支持用の構造材とか必要なくなっちゃうじゃん？

いいのか？

そんなんで本当にいいのか？

そういうえば、風石の力でガーゴイルを動かしていたんだっけ。

つまり、一般的な物を浮かべる力を、別の形で利用することも可能だということだ。

……なんだ。じゃあビダーシャルは風石の物を浮かべる力を制御して空を飛んだのではなく、風石の力を先住魔法のエネルギー源として利用しただけだつたんだろう。

うん。

そういうことじよ'。

……って、それももたものすぐ便利だな?

ガーゴイルを動かせる?

どんなエネルギーに変換して動かしたんだろう?

調べてみたらそのガーゴイルって、機械というより人造生物に近いものだつたらしい。

筋肉があつてそれにエネルギーを送るためだと思われる血管なんかがあったというから、普通の生物の細胞内で行われている、糖の酸化の代用になつていただろう。

もしくは、単に風石の能力の一つである重量の軽減によつて、本来の筋肉の働きを助けていただけという可能性もある。

でもなあ……重量の軽減つてさ、それ、どんな効果なんだ?

質量を減らしているのか?

それとも質量はそのままで、動きを強化する方に、風の形の運動エネルギーを加えているんだろうか?

あーでも、風じゃ大変だよなあ……。

それはそれで面白いけど、どうなってるんだろう?

風石の物を浮かべるっていう力も問題だよね。

風の力で揚力を発生させている、とかじゃないよね。

星の重力に対する斥力? 反重力ってやつなのか?

それとも質量を変化させて比重を変える事で浮かべてるのかな?

質量を変化させるんだとしたらそれはそれでものすごいし、反重力、もしくは重力遮断って感じでもす”い。

遙か未来のチート技術だよね。

物語を作る際の事を考えると、反重力か重力遮断が一番問題が少なくていいんだよねえ……。

質量を変化させちゃうと、コレ、もう滅茶苦茶ヤバイ技術に発展するはずだから。

やつぱり反重力が便利で使いやすいかなあ……?

でもそうすると、風石って結局なんだ? って事になりかねないよねえ?

風を発生させる事ができて、ついでに風の精霊と呼んでいる精霊が集まっているから……ってだけで、実際には風ではなく、別の力を

『同つている石……つて感じでもいいのかな？

そういうえば、土石や水石や火石つていうのも、一応全部考えなきゃいけないんだよねえ……。

いつそのこと、風石が重力、他の3種類がそれぞれ、電磁力、強い相互作用、弱い相互作用を同つているつて事にしてもいいよね？

でもつて、虚無が宇宙頃、ダークエネルギー？ www

そうなると、風石で風が発生するのは、風石が重力を変化させて周囲の時空を歪めているからだ、という事にできる。

火石が熱や光を取り込むのは火石の内部で、電磁力によつてそれらを封じ込めているから。

水石、といつか精霊の涙については……どうしよう～。

強い相互作用かな？

変化しない事が需要みたいだし？

そうなると土石……は弱い相互作用か？ 元素変換とかに使えるつて部分でもベータ崩壊のネタが使えるから、これはこれでいいかな？

虚無が第五の力つていうのも悪くないよね？

うーん……まあ、そのうちもつといいアイデアが出てくるかもしないし、今決める必要もないだろ。

うん。

まあいいや。

またそのうえ、改めて考えよう。

## 脳内プレスト ゼロ魔の一次設定を捏造する 3（後書き）

「意見」「感想、ネタ、勘違いいや間違いの訂正その他もんもん、よろしくお願ひします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5261z/>

ゼロの使い魔で宇宙開発モノを書くために、設定を色々と捏造してみる

2011年12月17日23時45分発行